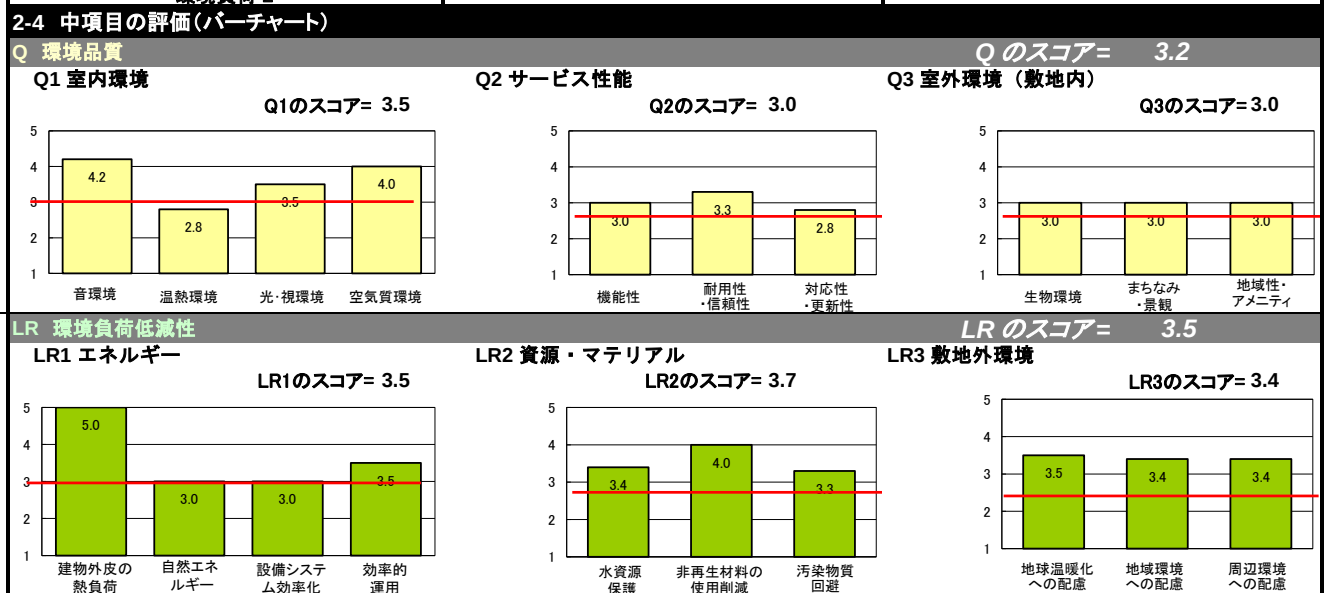
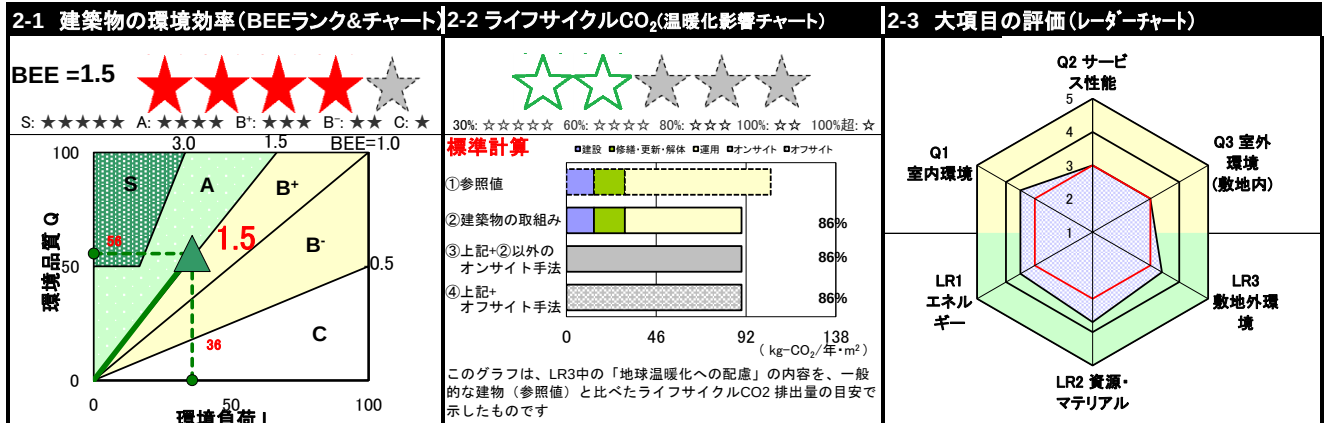


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版、4.0版及び5.0版の環境負荷低減性評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)H'O名古屋栄 新築工事	階数	地上12F
建設地	名古屋市中区錦3丁目711番1,712番,713番,713番1,713番2,713番3	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	450 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年6月13日
敷地面積	370 m ²	作成者	
建築面積	292 m ²	確認日	2025年7月4日
延床面積	3,398 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
名古屋市中区に建設される事務所ビルである。	特になし。
Q1 室内環境 天井裏も含めてF☆☆☆☆の建築材料を使用し、室内空気環境を良好に保つための配慮をしている。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い材料を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内) 屋上や外壁面に緑地づくりをし、生物環境の保全と創出に努めている。	
LR1 エネルギー 高い外皮性能の熱負荷抑制により、省エネルギーで快適な室内環境を形成する。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材料を使用し、建物の環境負荷の軽減に努めている。
	LR3 敷地外環境 周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

(仮称)H'O名古屋栄 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.091409983	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009140998	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045704992	
3. 循環型社会				3.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。